

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071201000		
法人名	医療法人 海洋会		
事業所名	グループホーム ほんわかハウス新館		
所在地	福岡県福岡市西区今宿青木792-4 (電話) 092-805-8800		
自己評価作成日	平成 23 年 7 月 10 日	評価結果確定日	平成 23 年 9 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

基本理念にもあるように、「ほんわかハウスの主人は入居者お一人お一人で」あり、「入居者個々の意志及び人格が尊重され、お一人お一人のペースや希望に添って自由にありのままに暮らして頂く」ことができるよう支援しております。外出機会も多く、季節の花見や神社への参拝、野球観戦など入居者個々の趣味・趣向に合わせた支援を可能な限り行っています。また、同法人内のグループホームと協同で、敬老会やクリスマス会などを開催しています。日々の暮らしに喜びと自信を持って頂けるよう職員一同入居者の皆様を支援させて頂いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 23 年 8 月 3 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

国道バイパスから少し入った住宅地にあり、地域に開かれた事業所を目指し、地域交流を積極的に図っている。月に2回、教会からの「歌の会」のボランティアとの交流を持っている。月に1回は訪問あり、もう1回は利用者が訪問しての活動を行っており、一方的に訪問を受けるのではなく、事業所からも地域に出での交流を行っている。公民館での「ふれあいサロン」への利用者の参加もその一環である。餅つき会へ地域住民の参加を呼びかけ、ご近所へのついた餅をおすそ分けをしている。運営推進会議は委員からの「名称が固くて来づらい」との意見から「地域交流会」との名称で運営し、委員の積極的な参画がある。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び全職員が理念の共有をしている。月1回のミーティングの場を活用し、グループホームという環境の必要性などを見つめ直し、理念に即した実践ができるよう取り組んでいる。	事業所には理念があり、地域密着型の視点がある。同法人にはグループホームが2事業所あるが、それぞれの事業者は立地条件が違い、新館では住宅街にあることを活かし、理念の「地域に開かれた…」部分の実践に力を入れている。理念の共有化、意識化は毎月のミーティングで行われ、日常的な地域住民との交流で実践されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に属しており、自治会主催の行事や町内清掃にも積極的に参加している。近隣の方とすれ違う際には挨拶をするように心掛けている。また、年末には餅つき会を主催し、近隣の方に参加して頂いたり、ついたお餅をおすそ分けするなどの付き合いをしている。	理念の「地域に開かれた場としての交流に努めます」を実践している。利用者の散歩時は地域の人とお互いに挨拶を交わし、近所の高齢者は散歩の途中の休憩所として利用され、小学生児はトイレを借りに来る。自治会に参加し、地域清掃には職員が参加し、地域行事のウォークラリーには可能な範囲で参加する。「ふれあいサロン」でも交流を行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を通して、地域の方々にグループホーム内での生活状況等を報告し、地域の方々の疑問点などをその場で、お伺いしている。また、会議を活用し、認知症についての勉強会なども開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度会議を行っており、生活状況やサービスの報告を行っている。又、日々のサービスに対する疑問や不安などの意見を聞き入れる場を設けている。近隣の他事業所の職員も参加していただき、幅広い視野で評価していただいている。	運営推進会議は自治会長・公民館館長からの名称が固く、来づらいため「地域交流会」の名で定期開催し、利用者の状況やサービスの実際、評価への取り組み状況の報告などが行われている。近隣の地域密着型サービス事業所職員も参加し、老人会会長等から地域の高齢者の状況などの情報を得て、支援に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営面での疑問や相談事等が発生した際、直接来庁し相談している。また、地域運営推進会議において、福岡市主催の出前講座を活用したりと協力・連携を図る事に努めている。	区役所の窓口は頻回に訪ね、利用者家族の利用料負担に関する事、運営上の疑問点等を相談している。市の関係部課員の職員が講師となる市の出前講座に事業所・運営推進会議が団体として計画・申込をして講座を開催し、地域住民、家族等の参加を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は原則玄関の施錠は行っておらず、自由に出入りができる。それに伴うリスクに対してもスタッフ間で認識し、見守りなどの対応を行っている。	日中、玄関には施錠はしていない。職員は利用者の外出傾向は把握し、見守りや付添いを行っている。ついて来られる事を嫌われる利用者で転倒等の心配の無い方は家族とリスク等も話し合い了解を得て、本人に気付かれない範囲で見守っている。身体拘束の弊害は外部・内部研修で職員間に十分意識化・共有化され実践されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング、勉強会、研修等で虐待について学び、日常生活内での対応について見直す機会を設けている。また、ケアをする職員においても、適度な休憩やリフレッシュ休暇の付与など、職員個々のストレス軽減を図る事にも注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム内で勉強会を行っており、スタッフ間で理解する場を設けている。地域包括支援センター職員を講師として招き、学ぶ場を設けている。	家族会で権利擁護の制度とその利用について、パンフレットを用いて説明を行っている。その結果、家族で検討されて利用に至ったケースもある。また、地域包括支援センターの職員を講師に招いて地域交流会で勉強会を行い、職員間での知識の共有化を図っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明を行い、了承を頂いている。利用前に数時間実際の生活を体験して頂いたり、必要に応じて数回に分けてご家族との相談の時間を設けている。又、ご家族様がいつでも尋ねられるようにスタッフ全員が窓口となっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族、地域包括支援センター、スタッフ、地域の方々と交えて意見交換を行っている。家族会も定期的で開催し、来訪時にも意見等を聞いて参考にしている。また、必要に応じて、管理者や担当職員が個別に時間を設けている。	利用者が何げなく発した言葉を職員は書き留め、その中に利用者の思い・嗜好等を推し測り、利用者の支援に繋げている。家族等の来訪時には職員から話し掛け、お茶を出すなどして話しやすい環境づくりをしている。家族からよく出る質問等を分かりやすく項目別に冊子にまとめ「ご利用について」を用意し、好評を得ている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務やケア、運営面において普段から職員と話をする時間を設けている。また、個別に管理者と職員とのスーパービジョンを数カ月に一度、行っている。	自己評価に関しては、全職員が各自取り組み、管理者が集約している。職員は月1回のミーティング時に意見等述べる機会があり、管理者による年2回のスーパービジョンで職員自身の「振り返り」ができています。職員の要望の強かった休憩時間の確保も話し合って実現している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与支給時期には、人事考課を行い、職員自らも自己評価を行っている。個々の評価と所属長の評価を踏まえ賞与の査定としている。人事考課で明らかになった課題については個々にフィードバックし、業務における目標設定を共に行い、向上心をもって働けるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり特別な選考等は行っていない。事業所の職員においては、個々の能力の把握に努め、長所を伸ばせるような指導・支援を行っている。職員の配属、配置においては、ユニットのバランス、状況を踏まえ行い、人事の異動も必要に応じて行っている。	採用は法人本部が行うが、管理者も立ち会い、能力・適性・希望で配属され、性別・年齢等での差別はない。研修への参加機会も公平であり、職員が自己実現できるように配慮がなされている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職場内での勉強会、外部研修等を活用しながら取り組んでいる。研修を有効に活用する方法として、資料の回覧やミーティング時に全職員にフィードバックしている。	人権に関しては、内部研修を行ったり、外部研修に参加し、参加できなかった職員に対して伝達研修を行っており、十分職員間で意識化され共有されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○JITを含め、テーマ別勉強会や新人研修等を行っている。また、グループホーム協議会研修や福岡市主催の研修など、研修年間計画を作成し、職員個々の適性を見極めながら必要な研修に参加できる環境を作っている。研修内容に関しては、資料の回覧、ミーティング時のフィードバックなど全職員が共有できる仕組みを作っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会主催の研修やブロック内での勉強会、情報交換会などに積極的に参加している。地域運営推進会議には、同じ町内の他事業所にも参加して頂き、交流を図っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族へも伺いを立てながら、個々のアセスメントを行い、職員間で連携しながらご本人が安心して暮らせるよう支援させて頂いている。常に笑顔で接するよう心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人・ご家族様の意見や要望、困りごとについて傾聴し、時間をかけてニーズを受け止めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	ご本人やご家族の意向、要望、思いを考慮 し、アセスメントを行い、ケアプランを作成 している。ご家族協力のもと、利用者の状 態、生活歴、バックグラウンドの早期把握に 努めている。常時アセスメントを行い、ス タッフで共有している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	個々のペースに沿って生活して頂いている。 起床、入浴、食事等の時間を決めておらず、 本人の希望に添うよう努めている。食事も一 緒に作ったり、家事も協力して行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	月に一度のお便りや会報誌を発送している。 ご本人様の状態、相談等の連絡もさせていた だき、来訪時にも様子などを伝え要望や意見 も伺っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	個別支援として、行きたい場所、会いたい人 に会えるよう同行している。御家族に相談し 協力を得て、本人が行きたい場所に同行し、 会えない時には電話をかけた、かけて頂い たりしている。	管理者・職員は入居前のアセスメントや利用 者・家族からの聴き取りで利用者の馴染みの 人や場所を把握して支援している。墓参りに お連れしたり、ある利用者においては、かつ ての教え子が訪問してくれている。散歩の時 は、地域の人と挨拶を交わし、会話を楽しん でいる。途中でコンビニに立ち寄り、好み のお菓子を買うこともある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、コミュニケーションがうまく図 れるよう席の配置など考慮している。居室で こもりがちな時には、声をかけ、入居者様 と一緒に楽しめるよう歌を歌ったり、過ごし やすい環境作りに努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談などを受けている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活でのコミュニケーションや行動からご本人の希望、意向の把握ができるよう努めている。定期的にカンファレンスを行い、ご本人の意向の確認をしている。	職員は日々の会話の中から利用者の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難は利用者に対しては表情・行動から、家族等からの情報を基にそのバックグラウンドを把握しており、真意を推し測り支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活でのコミュニケーションや行動から情報収集に努め、ご家族とも密に連携を図り、情報収集に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から、個々の生活のペース、心身状態、コミュニケーション、生活歴等の把握に努めている。又、馴染みの習慣や好みなどを把握し、その人らしく生活が送れるよう支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く生活できるように課題とケアの在り方についてご本人、ご家族、必要な関係者と密に情報を交換し、現状に即した介護計画を作成している。又、ミーティング時にカンファレンスも行っている。	担当制を設けて各職員が担当利用者分を利用者の状況、利用者・家族等の意見・要望等伺い、介護計画の原案を作成している。その後、ケアカンファレンスで話し合い、最終的に計画作成担当者が作成している。6ヶ月に1回、または、状況の変化等があれば随時、介護計画の見直しを行っている。利用者・家族の同意を得て、署名・押印を貰っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、ケアの実践、内容、結果等を個別に記録している。浮き彫りになった問題や課題をスタッフ間で情報共有し、ケアの見直しを図り、より良い支援ができるよう努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の介護計画にとらわれず、その都度生まれるご家族、ご本人の希望、課題に対応し、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で生活している中で、その資源を把握し、ご本人が安全で力を発揮でき、楽しく豊かな生活ができるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望やこれまでの生活を大切にし、かかりつけ医を選んで頂いている。医療機関と事業所の関係を築きながら安心かつ適切な医療を受けられるよう支援している。又、定期的診察以外も受けることができ、医師とのやり取りの内容もご家族へ報告している。	利用者・家族が希望されたかかりつけ医の受診支援を行っている。現在は、ほとんどの利用者が当事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。受診結果等については、家族との情報の共有もできている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の心身の状態や情報を密に連絡し、ご本人が安心かつ適切な看護を受けられるよう努めている。定期的な来訪に加え、急変時には医師や看護師に連絡して診察又は指示を仰いでいる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人が安心かつ適切な治療を受けられるよう病院と密に連絡を取り情報交換に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の在り方についてご家族やご本人と話し合いを行い、事業所ができる事を説明、理解して頂き支援している。また、入居後も心身の状態変化に伴い、意向や対応方法について相談している。	重度化や終末期に向けた方針は明文化され、職員間で共有化されている。家族等に対しては契約時に説明し、同意書を貰っている。状況に変化があれば、その都度同意を貰い、家族等の気持ちに寄り添って支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え、スタッフは勉強会や研修に参加して実践力を身につけ、応急処置ができるように訓練を定期的に行っている。また、対応マニュアルも作成している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、勉強会も開いている。年に2回、消防署、消防団の方の指導のもと火災訓練を行っている。防災設備の点検も業者を通して行っている。	各ユニット毎に、午前中・午後と毎日2回職員中心の避難誘導をシミュレーション訓練で5分程行っている。また、年2回、消防署または消防団の協力の下、総合訓練を行っている。総合訓練時は地域住民に呼びかけ、住民の参加もある。非常用備品等は各ユニットで準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応するよう心がけているが、慣れすぎた声かけがまれに見受けられるため、その際には注意を促している。	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保は、勉強会等を通して職員間には意識化・共有化が図られ、さりげない声掛け等で実践されている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけには簡単で分かりやすい言葉を選んでいる。バックグラウンドを把握し、声かけのきっかけにしている。又、自己決定をして頂くよう常に2、3の選択肢の中から選んで頂くなどの工夫をしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ドライブや散歩、買い物等、個々の希望に添って、その都度支援している。スタッフから提案してお連れする時もある。食事、入浴も好きな時間にできるように支援している。ご本人の「やりたい事」を常に把握し、できるだけ希望に添うよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何を着たいか伺ったり、洋服を見せて選んで頂いている。ご自分で選ばれた方には「素敵ですね」等と声をかけている。外出時にはお化粧などもして頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューには入居者様の意見も取り入れている。個々に合わせた食器や以前使われていた物も使用して頂いている。テーブルの配置、同席の方との関係を考慮している。個々の能力に合わせ、盛り付けや調理、片付け等もされている。	利用者の栄養バランスに配慮し、昼食は業者から配達される。朝食と夕食は職員が調理し、利用者もフライパンで焼く・炒める、野菜切り、配膳や片付けを手伝っている。2ヶ月1度「駅弁の日」を設け、趣向を凝らして楽しんでいる。玄関先の小さな畑で収穫されたトマト・胡瓜等を献立に加えて食事を楽しくめるよう支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて嚥下補助剤を使用するなど、個々の心身の状態に合わせた支援を行っている。個々の好みを把握し、好みの飲み物を好みの温度で提供している。グラスやカップも工夫している。夜間も必要に応じて水分を提供している。食事が低下している時には、主治医にも相談して補助食の提供を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけや義歯の洗浄を行っている。希望により、週一度の歯科往診を受けている。食後、緑茶にてうがいをしている方もいる。口腔ケアのできている人とできていない人がいる。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、個々の排泄パターンの把握に努めている。そのパターンに合わせてトイレの声かけも行っている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれのサインを見逃さず、さりげない支援を行っている。おむつやパットの利用にあたっては、一部介助や全介助の違い等を十分に検討して、利用するなどの支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いメニューにしている。10時と15時のお茶の時間に野菜ジュース、朝食時には牛乳の提供もしている。お茶はいつでも飲めるようテーブルに常備している。最終排泄の申し送りをし、スタッフ間の把握に努めている。散歩などの声かけも行っている。医師と相談し、緩下剤の調整も行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴の時間や曜日は決めていない。ご本人から希望の時間等あればその都度応じている。毎日入浴される方もいる。	入浴は時間や曜日は決めておらず、利用者の希望に合わせて対応している。夕食後の希望にも対応し、毎日、入浴を楽しまれる方もいる。入浴を拒否される利用者には声掛けのタイミングを変えたり、対応する職員変えてみたりしてお風呂への誘導をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況を記録して把握に努めている。居室の明るさ、音、室温の調節を常時行っている。共用スペースにはソファや椅子を多く設置し、クッションを置き、好きなところでいつでも休息できるようにしている。休息中は膝かけなどを使用し、保温にも努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテに処方薬を記入し、受診や往診の都度、確認している。薬の変更があった時には1日2回のバイタルチェックを行うなど、常に状態に変化がないか観察している。服薬が困難、また、拒否がある方に対しては、医師の指示のもと薬をつぶしたり、はちみつなどを混ぜて提供している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、バックグラウンドを把握し、その方の有する能力に合わせた役割を見つけて支援している。キーボードを使って一緒に歌ったり、ボランティアの方による歌の会にも参加して頂いている。その他にも、買い物、ドライブ等、入居者様が生活を楽しめるような支援に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様に希望を伺ったり、声をかけたりして、買い物、散歩、ドライブ等の支援を行っている。買い物も入居者様と行くよう心がけており、品物も選んで頂いている。時には野球観戦やあじさい見物など季節や趣向に応じた支援を行っている。	散歩は週2、3回利用者の希望等に応じて行っている。その他、外食や買い物、ドライブ等、天気や利用者の体調や希望に応じ利用者一人ひとりに外出支援を行っている。何げない利用者の会話の中の「～がしたい」「～行きたい」との希望や思いを職員が書き留めて外出支援に結びつけている。花見等は家族の参加協力がある。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を持たれてる方はほとんどいない。お金を持たれてる方には、会計時、横で見守り、使用した金額の把握や残金の確認を行い、必要に応じてご家族に報告している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をしたい」との希望があれば、受話器をお渡しし、「してほしい」と言われた時には、代理でかけお代わりしたり、代理で話をしたりしている。又、携帯電話をお持ちの方には、どこにあるのかを把握し、充電の確認、ポケットに入れられてる時には、落とさずに見守っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、廊下には、歌や写真等も飾っている。テレビの音、風、光、温度の調節は常に確認し、生活しやすい環境作りにも努めている。	ソファが適当に配置され、壁には利用者の作品、写真、手書きの歌詞カードが飾られている等居心地良く過ごせるような工夫をしている。歌詞カードには利用者の好きな歌が書かれており、時折、ソファに寛ぎながら歌い、利用者のキーボードによる伴奏もある。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置は入居者同士の相性等を考慮して決めている。ソファにて気のあった人同士で歌を歌われる時もある。一人になりたい方には見守りを行うが、孤独にならないよう、時折、声をかけている。廊下や玄関に椅子があり、好きな場所で過ごせるようにしている。他の方の居室など遊びに行けるよう声かけしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、タンスなど使い慣れた物を持ってきていただいている。ご本人やご家族に相談しながら、居室に飾り物も置かせて頂いている。入居者様の毎日の動線に配慮しながら、ご本人がリラックスできるような空間作りにも努めている。	利用者の部屋には馴染みのタンス・ベッド・テーブル、家族の写真等が持ち込まれており、利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレには手すりを付けたり、車いすの方が通りやすいよう、道を広くしたり入居者様の身体機能を配慮し座りやすい席について頂いている。足元に物を置かない等安全かつ、自立した生活が送れるよう努めている。目につく所に、カレンダーを置いたり、トイレなどには、わかりやすい表示をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2／3くらいの ③利用者の1／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
			○	
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
			○	
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない
			○	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び全職員が理念の共有をしている。月1回のミーティングの場を活用し、グループホームという環境の必要性などを見つめ直し、理念に即した実践ができるよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に属しており、自治会主催の行事や町内清掃にも積極的に参加している。近隣の方とすれ違う際には挨拶をするように心掛けている。また、年末には餅つき会を主催し、近隣の方に参加して頂いたり、ついたお餅をおすそ分けするなどの付き合いをしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を通して、地域の方々にグループホーム内での生活状況等を報告し、地域の方々の疑問点などをその場で、お伺いしている。また、会議を活用し、認知症についての勉強会なども開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度会議を行っており、生活状況やサービスの報告を行っている。又、日々のサービスに対する疑問や不安などの意見を聞き入れる場を設けている。近隣の他事業所の職員も参加していただき、幅広い視野で評価していただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営面での疑問や相談事等が発生した際、直接来庁し相談している。また、地域運営推進会議において、福岡市主催の出前講座を活用したりと協力・連携を図る事に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は原則玄関の施錠は行っておらず、自由に出入りができる。それに伴うリスクに対してもスタッフ間で認識し、見守りなどの対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング、勉強会、研修等で虐待について学び、日常生活内での対応について見直す機会を設けている。また、ケアをする職員においても、適度な休憩やリフレッシュ休暇の付与など、職員個々のストレス軽減を図る事にも注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム内で勉強会を行っており、スタッフ間で理解する場を設けている。地域包括支援センター職員を講師として招き、学ぶ場を設けている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明を行い、了承を頂いている。利用前に数時間実際の生活を体験して頂いたり、必要に応じて数回に分けてご家族との相談の時間を設けている。又、ご家族様がいつでも尋ねられるようにスタッフ全員が窓口となっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族、地域包括支援センター、スタッフ、地域の方々を交えて意見交換を行っている。家族会も定期的に開催し、来訪時にも意見等を聞いて参考にしている。また、必要に応じて、管理者や担当職員が個別に時間を設けている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務やケア、運営面において普段から職員と話をする時間を設けている。また、個別に管理者と職員とのスーパービジョンを数カ月に一度、行っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与支給時期には、人事考課を行い、職員自らも自己評価を行っている。個々の評価と所属長の評価を踏まえ賞与の査定としている。人事考課で明らかになった課題については個々にフィードバックし、業務における目標設定を共に行い、向上心をもって働けるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり特別な選考等は行っていない。事業所の職員においては、個々の能力の把握に努め、長所を伸ばせるような指導・支援を行っている。職員の配属、配置においては、ユニットのバランス、状況を踏まえ行い、人事の異動も必要に応じて行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職場内での勉強会、外部研修等を活用しながら取り組んでいる。研修を有効に活用する方法として、資料の回覧やミーティング時に全職員にフィードバックしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○JITを含め、テーマ別勉強会や新人研修等を行っている。また、グループホーム協議会研修や福岡市主催の研修など、研修年間計画を作成し、職員個々の適性を見極めながら必要な研修に参加できる環境を作っている。研修内容に関しては、資料の回覧、ミーティング時のフィードバックなど全職員が共有できる仕組みを作っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会主催の研修やブロック内での勉強会、情報交換会などに積極的に参加している。地域運営推進会議には、同じ町内の他事業所にも参加して頂き、交流を図っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用する前にご本人と会って、困っていること、不安なこと、要望等をしっかりと傾聴し、安心してサービスが受けられるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用する前にご家族と会って、困っていること、不安なこと、要望等をしっかりと傾聴し、よりよい関係を築けるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族とコミュニケーションをとり、希望を聞いて支援させて頂いている。必要であれば、色々なサービスの検討も行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と共に食事の準備、外出等をし、入居者からの要望を聞き、それを取り入れ、お互いがお互いを支えあえる関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の要望を伺い、家族の思いに近づけるよう努力している。ご家族と共に支え合う関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みがあった場所に職員と一緒に外出する機会を設けている。また、馴染みの人がいつでも気軽に訪問することができるよう、オープンな受け入れ環境を用意している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないように、極力職員が間に入り、手伝いなどを頂き、入居者同士の関係がより親密になり、居心地良い空間であるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の他事業所に係るサービス利用について橋渡しをする等、ご本人やご家族の力になれるよう関わりを持っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者同士や職員との日々の会話や行動などから、一人ひとりの思いや望み、意向を把握するよう努めている。また、ケアプラン作成時には、ご本人やご家族の意見、要望を伺い、ご希望に添ったプラン作成ができるよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者同士や職員との日々の会話や行動、家族からの情報から、一人ひとりの生活歴や暮らし方などの把握に努め、共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、できること、できないことなど把握するよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が望む暮らしのための課題、支援について、ご本人、ご家族、担当医などの意見を聞き、職員間では日々の生活の様子から支援について話し合い、介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、支援についての工夫、実践と結果などを個別に記録し、職員間で情報を共有し、より良い支援ができるよう努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランだけに捉われず、ご家族や入居者の要望を聞き、それを支援やサービス反映できるよう柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が望む暮らしができるよう地域資源を把握し、喜びのある豊かな暮らしができるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に2週間に1回診て頂き、診察日以外にも状態変化があった際には連絡し、医師の指示を仰いでいる。また、必要があれば他科受診を支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的来訪以外にも、入居者の体調不良、発熱などの際には相談して指示を仰ぎ、適切な対応ができるように努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、必ず病院と連絡を取り合っている。また、かかりつけ医とも連携し、必要な情報提供や、その他必要と思われる入退院の支援も行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、ご本人やご家族と話し合い、事業所でできることについて理解をしていただいて支援している。契約時には同意書（意向）を頂いているが、入居後も状態変化に応じて意向を伺っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、消防署主催の救命救急の講習を全職員が受講している。応急処置について学んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災避難訓練を行い、災害時に入居者が避難できる方法を全職員が体得できるよう学習している。その際、消防署員や消防団員、地域の皆様にも参加して頂いている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドやプライバシーを傷つけないように対応している。また、声の掛け方に注意している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりがのびのびと自分の希望を伝えることができる雰囲気作りや、思いが言いやすいような声掛けが出来るよう努めている。自己決定ができるよう、いくつかの選択肢を用意するなど普段から配慮している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣やペースを尊重し、無理なく過ごせるよう支援している。その日をどのように過ごすか希望どおり対応できない日もあるが、可能な限り支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。 1～2ヶ月に1回散髪され、パーマをかけた人はかけられている。日常的には、爪のおしゃれを楽しんで頂いたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、季節感や一人ひとりの好みを取り入れた料理を工夫して、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けができるよう働きかけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態に応じて、食べる量、水分量等を全職員が把握し、しっかりと確保できるよう支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの状態に応じて口腔ケアの支援をし、必要な方には歯科往診をしてもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれの力に応じた支援をしている。声掛けをして要所要所でトイレに行くように促し、自立を目指している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況をチェックし、繊維の多い食べ物、水分摂取など調節しながら便秘の予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。入浴の時間は決めていないが、だいたいの方が14時から20時までの間で入浴されている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々体調に応じて休息したり、安眠できるよう電気の明るさや温湿度等に注意しながら支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方薬は全て職員が管理しており、指示に従い服用して頂いている。また、各入居者の担当職員が薬の目的や効果等を一覧表にし、全職員がファイルを見て理解できるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの有する能力に合わせた役割を見つけ、安心して生活や作業ができるよう支援をしている。ドライブや買物、外食等、入居者が楽しい時間を過ごせるよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、買物など個々の希望をお聞きしたり、入居者さん同士の会話の中で“～がしたい” “～行きたい” など希望が聞かれた際は別紙記録を用意し記入している。その記録を基に食事メニューの立案や外出の計画などを立て支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてお金を所持していただき使えるように支援している。買物に行き品物を選ぶ楽しさ、見る楽しさを味わってもらえるように可能な限り支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望されたら、かけ方を教えてさしあげたり、一緒にかけたりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を飾り、和室に季節を感じられるような装飾をしたりしている。音、光、湿度の調整に配慮し。心地よい空間であるよう心掛けている。共用の空間が入居者にとって安全で清潔を保てるよう日々チェックし、工夫している。職員間で好ましくない刺激がないか注意している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファを置き、気の合う入居者同士が楽しく過ごせるような環境を提供している。廊下にもくつろげるためのスペースを確保し、一人になりたいときなどそのスペースを利用して頂いている。座る位置やグループ分けなどにも配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がご家庭で使用していたタンス、ベッド、イスなどを持参して頂いており、ご本人も納得の上、生活しやすい場を作っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングやトイレ等の共用スペースには手すりをつけ、安全・安心に使えるようにしている。また、希望があれば居室に手すりを設置し、ご本人の安全と動線を確保するための配慮をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない			
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
<input type="radio"/>	④ほとんどない			
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
<input type="radio"/>	④ほとんどいない			
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
<input type="radio"/>	④ほとんどいない			
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
<input type="radio"/>	④ほとんどいない			
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
<input type="radio"/>	④ほとんどいない			
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない			

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない